



スリランカ

①スリランカってどんな国？

国名 … スリランカ民主社会主義共和国 (略称：スリランカ = 「光り輝く島」)

※イギリス植民地時代は、[1] と呼ばれる

※国号を「スリランカ」に改称した [2] 首相は、

公用語 … シンハラ語、タミル語 (英語話者が約1割おり、国の指導的立場に立つ)

人口 … 19,905,165人 (世界53位)

民族 … [3] (72.9%)、[4] (18%)、ムーア人 (8%)

バーガー人 (1%) ※外務省の資料による

宗教 … [5] (70%)、[6] (10%)、キリスト教 (11.3%)、

[7] (8.5%) ※外務省の資料による

首都 … [8] (光り輝く・勝利をもたらす街・コッテ)

GDP (国内総生産) … 223億^{ドル} (世界77位) ※日本は4兆7,990億^{ドル} (世界2位)

一人当たり国民総所得 (GNI) … 850^{ドル} (≒¥10万) ※日本は34,010^{ドル} (≒¥400万)

輸出 … 47億^{ドル} → 衣類 (49.8%)、[9] (13.8%)、貴石と半貴石 (6.4%) など

スリランカの国旗



剣を持つ獅子 = シンハラ王朝 (BC5c~1815) 以来の国の象徴

四隅の菩提樹 = [10] の象徴

サフラン色 = [11] (タミル人)

緑色 = [12] (ムーア人)

戦闘で75人死亡、政府海軍と反政府勢力 スリランカ

スリランカ北部の海上で1日夜から2日早朝にかけ、政府海軍と反政府武装勢力「[13] (LTTE)」との間で激しい戦闘があった。スリランカ国防省の発表では、LTTEの船12隻が沈没し、LTTEの75人以上が死亡した。

国防省によると、同国北端のポイントペドロ沖の海上で1日午後8時ごろ、LTTEの船約20隻が海軍の高速艇などに攻撃をしかけ、戦闘になった。沈没した12隻のうち、5隻が自爆船だったとしている。海軍側は2隻が損傷し、2人が負傷した。

一方、LTTE寄りのウェブサイトは「海軍の2隻が沈没し、30人が行方不明」とし、LTTE側の被害には触れていない。

asahi.com 2006年09月02日

- ・紀元前5世紀 [14] が北インドから移住して王国をつくる
 - ・紀元前3世紀 アショーカ王の王子マヒンダが [15] を伝えて以後、スリランカは上座部仏教（小乗仏教）の中心地となる
 - ・紀元前2世紀 この頃から、南インドより [16] の [17] が侵攻、シンハラ人は仏教を守る
 - ・13世紀 タミル人の侵入が激化。
 - ・1815年 イギリスにより植民地化
 - ・1948年 [18] のインド撤退政策の一環として、イギリス連邦内の自治国（コモンウェルス）として独立。
 - ・1956年 [19] が唯一の公用語に（「シンハラ・オンリー政策」）
 - ・1976年 [20] (LTTE) 設立、テロ活動を展開
 - ・1983年 LTTEによるシンハラ人兵士殺害 → 反タミル暴動で多数のタミル人虐殺
 - ・1987年 [21] の介入、停戦 → インド平和維持軍の派遣
 - 〃 憲法改正 → [22] と [23] が公用語に
 - 1980年代後半～90年代 LTTE とシンハラ人過激派の内戦が激化
 - ・2000年 ノルウェーの調停で停戦
- ※この紛争による死者は6万4000人、避難民は約100万人といわれている。
- ・2006年7 政府軍が LTTE の拠点の空爆開始 → 停戦崩壊の危機

国際関係学 9/14(木)

2時間目 スリランカ

講師 Toshihiro Rinra Iwamoto



面積 65,610km² 北海道の約0.8倍

人口 1,890万人（1999年中期推定人口）

首都 スリー・ジャヤワルダナプラ・コーツェ **商業首都** コロンボ

気候 四季はなく、一年中天気は良い。国の中央は丘陵部で、周辺地域は大部分が平地である。よって、平均気温は27.1C°と暑く、湿度は高いが、海風により涼しい時もある。地域によっては、気温が4月と10月には32C°に上昇する。丘陵部の平均気温は21.8C°で、12月から2月にかけて、夜間は最高峰部で0C°になる。雨はよく降るが、地域によって異なる。大抵、雨はすぐに止み、太陽がすぐに現れる。年間平均降水量は1,861mmである。

言語 公用語：シンハラ語とタミル語 連結語：英語

宗教 仏教徒69.3%、ヒンドゥー教徒15.5%、キリスト教徒7.6%、イスラム教徒7.5%、その他

民族 シンハラ74%、スリランカ系タミル12.6%、モスリム7.1%、インド系タミル5.5%、その他0.8%

識字率 91.8%

教育 スリランカの学生は13年間学校教育を受ける。教育費は第一段階（大学までのレベル）を修了するまでは無料。しかし、授業料を徴収する私立の学校もある。

学校での指導方法はほとんどがシンハラ語とタミル語で、数少ないインターナショナルスクールでは英語が使用されている。スリランカには12の国立大学がある。

平均寿命 男性69.5歳、女性74.2歳 ⇒高い？

人口成長率 1.2%

大統領 President マヒンダ・ラージャパクサ Mahinda Rajapaksa

首相 Prime Minister ラトナシリ・ウィクラマナヤケ Rathnasiri Wickramanayake

略史 紀元前483年 ヴィジャヤ王子（シンハラ族の祖といわれる）スリランカ上陸シンハラ王朝建設

〃 250年 仏教伝来

紀元1505年 ポルトガル人来航（海岸地帯を植民地化）

1658年 オランダ人来航（海岸地帯を植民地化）

1802年 アミアン条約によりスリランカは英国植民地となる

1815年 キャンディー王朝が滅亡し、全島が英国の植民地化

1948年 英連邦内の自治領として独立

1956年 バンダラナイケ首相就任。シンハラ語のみを公用語とする公用語法成立。

1972年 国名をスリランカ共和国に改称（英連邦内自治領セイロンから完全独立）

1978年2月 ジャヤワルダナ大統領就任（実権のある大統領制の発足）

1978年9月 国名をスリランカ民主社会主義共和国に改称

1987年7月 スリランカ、インド和平合意成立、インド平和維持軍（IPKF）がスリランカへ進駐

1987年11月 憲法改正（シンハラ語及びタミル語を公用語と規定。州評議会制度を導入）

1989年1月 プレマダーサ大統領就任

1990年3月 IPKF 完全撤退

1993年5月 プレマダーサ大統領暗殺、ウィジェートゥンガ大統領就任

1994年11月 大統領選挙、クマーラトゥンガ大統領就任

1999年12月 大統領選挙、クマーラトゥンガ大統領再選

2001年12月 総選挙で野党統一国民党（UNP）が大勝、ウィクラマシンハ首相就任

2002年2月 政府とLTTEとの停戦合意成立

2002年9月 政府とLTTEとの和平交渉開始

2003年4月 LTTEによる和平交渉の一時中断の表明

2004年4月 総選挙で野党統一人民自由連合（UPFA）が勝利。ラージャパクサ首相就任。

2004年12月 スマトラ沖大地震及びインド洋津波により、スリランカ北西部を除く全ての沿岸が被災し、3万人以上が犠牲。

2005年11月 ラージャパクサ大統領就任

2006年2月 政府とLTTEとの「停戦合意の実施に関する直接協議」



内政

クマーラトゥンガ大統領は、2001年12月から続いていたねじれ現象（クマーラトゥンガ大統領がスリランカ自由党、ウィクラマシンハ首相が統一国民党）を解消すべく、2004年2月に国会を解散した。この解散を受けて、同年4月の総選挙でSLFPを中心とする統一人民自由連合（UPFA）が政権に就き、ねじれ現象は解消されるに至った。

暫くは、SLFPを中心とするUPFAは、連立政権の最大のパートナーである人民解放戦線（JVP）とともに政権を運営していたが、2004年12月のスマトラ沖大地震及びインド洋津波後、スリランカ政府とLTTEが共同で復興にあたるべく、国際社会からの支援を公平且つ透明性をもって分配するための「共同メカニズム」案にスリランカ政府が合意したことに反対して2005年6月にUPFA政権を離脱した。

一方、2005年に入ってから、1999年12月の大統領選挙で当選したクマーラトゥンガ大統領の任期終了が2005年末か2006年末かで論争となったものの、結局、2005年8月にスリランカ最高裁判所は「クマーラトゥンガ大統領の任期は2005年末まで」と裁定するに至り、2005年11月17日に大統領選挙が行われた。大統領選挙は、北・東部地域の住民がLTTEによる選挙ボイコットの影響を受けて低い投票率となる問題点があったものの、概ね平和的に行われ、ラージャパクサ首相がウィクラマシンハ野党総裁を僅差で破り、第5代大統領に選出された。

現在、ラージャパクサ大統領の下、UPFAが少数与党として政権を担っているが、大統領選挙の際には、ラージャパクサ大統領を支持したJVPが閣外協力をしている。

（和平プロセス）

2005年11月19日に大統領に就任したラージャパクサ大統領は、国会の所信表明演説において、新たなアプローチによりLTTEと直接交渉を行う用意があると表明し、1月には和平プロセスに関する全政党が一堂に会する協議を主宰するなど、現在、和平プロセス進展に向けて積極的に取り組んでいる。

和平プロセスの仲介役のノルウェー政府は、和平プロセスに具体的な進展がなく、停戦合意違反が儘見られる状況を憂慮し、スリランカ政府とLTTEとが2002年2月以降維持してきている停戦合意の実施を巡る諸問題について、両者が直接協議する機会を持たせるべく努力してきた。2006年1月には、ノルウェー政府仲介の下、スリランカ政府とLTTEが停戦合意の実施に関する協議を行うことに合意するに至り、2月22日、23日の2日間に亘り、スイスのジュネーブにおいて、「停戦合意の実施に関する直接協議」が行われた。本協議で両当事者は、停戦合意の強化が和平プロセスを前進させていくために肝要であるとの認識で一致し、双方ともに停戦合意を尊重し遵守することを確約するための具体的事項につき合意するとともに、両者は4月19日～21日にジュネーブで次回協議を開催することに合意したが、その後LTTEは開催予定日の4月20日、協議できる環境にないとして、協議の無期限延期を一方的に表明した。

我が国は5月30日、東京で東京会議4共同議長会合を開催し、政府、LTTE双方に和平プロセスを前進させるよう呼び掛けたが、LTTEによると見られるコロンボ市内での陸軍司令官への自爆攻撃や、アヌラダプラ県での市民の乗ったバスへの地雷攻撃等が続き、政府が報復のためLTTE支配地域を空爆する等、和平プロセスに前進は見られていない。

コロンボでの車両爆破事件

（1）8月8日、午後2時50分頃、コロンボ市のバンバラピティヤにおいて、EPDP所属の前国会議員の車両が爆弾により爆破され、車内から2名の身元不明の遺体が発見されました。

（2）午後4時10分頃の報道によると、車内には5人が乗車しており、車両の爆破で1名が死亡し、他の4名は重傷を負いました。また、爆破された際に車両直近を歩いていた親子2人が事件に巻き込まれ、子供が死亡し、母親は重傷を負いました。

キャンディー市近郊での警察幹部殺害事件

観光都市キャンディーから10kmほど離れたディガナの道路上において、STFトレーニング・センター長が、クレイモア地雷攻撃により殺害されました。キャンディー市内ではペラヘラ祭りの行われている最中であり、多くの観光客が訪れていました。本件は特定人物を狙い、早朝の人の出が少ない時間帯に起きた事件です。

政府とLTTE、無条件で和平協議復帰示す

欧州連合（EU）の執行機関である欧州委員会と日米、ノルウェーによるスリランカ復興開発会議が12日開かれ、紛争状態にある同国政府と少数派民族タミル人武装勢力「タミル・イーラム解放のトラ」（LTTE）の双方は無条件で和平協議に復帰する意向を示した。和平協議は10月上旬にオスロで開かれる見通し。

（毎日新聞）・9月13日

外交・国防

1.外交基本方針 外交の基本方針非同盟中立。近隣の南西アジア各国や先進各国を始め全ての国との友好関係維持に努めている。

2.軍事力 (1) 予算 534百万ドル (2002年) (2) 兵役 志願制

(3) 兵力 151,000人 (予備役を含む) (陸軍：118,000人、海軍：15,000人、空軍：18,000人)

経済 (単位 米ドル)

1.主要産業 農業 (紅茶、ゴム、ココナツ、米作：自給率100%)、繊維製造業

2.名目GDP 200.6億米ドル (2004年、市場価格表示)

3.一人当たりGDP 1,031米ドル (2004年、市場価格表示)

4.GDP経済成長 5.4% (2004年)

5.物価上昇率 7.6% (2004年コロンボ消費者物価指数)

6.失業率 8.5% (2004年推定値)

7.デット・サービス・レイシヨ (債務返済額÷総輸出額) 9.3% (2004年)

8.総貿易額 (2004年) (1) 輸出 (FOB) 57.6億米ドル (2) 輸入 (CIF) 80.0億米ドル

9.主要貿易品目 (2004年) (1) 輸出 工業製品 (繊維・衣類製品等)、農産品 (紅茶等)、宝石

(2) 輸入 中間財 (繊維関連等)、消費財 (食料品等)、資本財

10.主要貿易相手国 (2002年) (1) 輸出 米国 (37.5%)、英国 (12.5%)、ベルギー (5.5%)、ドイツ (4.2%)

(2) 輸入 インド (13.8%)、香港 (8.1%)、シンガポール (7.2%)、日本 (5.9%)

11.通貨 ルピー

12.為替レート 1米ドル=101.19ルピー (2004年末値)

1ルピー=1.07円 (2004年末値)

13.経済概況 「ス」政府は83年以降悪化した経済状況の建て直しを図るため、世銀・IMFとの合意に基づき88年より財政支出の削減、公的企業の民営化、為替管理を含む規制緩和等を内容とする構造調整政策を実施してきている。2001年はマイナス成長であったスリランカ経済は、2002年に入ってプラスへと転換し、年後半には力強い成長となった。これは主として、和平プロセスの進展により国内経済の環境が良好となったことによるものであり、その他に、政策金利の抑制等による金融政策、財政改善努力、構造改革の進展、世界経済の回復による国際環境の変化等の影響もあげられる。

近年では、津波災害を始めとする自然災害、国際的な原油価格の高騰等のマイナス要因はあるものの、サービス業が堅調に推移するなど、全体としては5~6%程度の成長率を維持している。

経済協力 (単位 億円)

1.我が国の援助実績 (1) 有償資金協力 (2004年度まで、ENベース) 6,504.53億円

(内2004年度実績 279.09億円)

(2) 無償資金協力 (2004年度まで、ENベース) 1,767.20億円

(内2004年度実績 114.69億円)

(3) 技術協力実績 (2004年度まで、JICAベース) 532.43億円

(内2004年度実績 22.54億円)

2.主要援助国 (2003年、DAC資料) (カッコ内数値はDAC諸国合計に占める割合)

(1) 日本 (63%) (2) ノルウェー (13%) (3) オランダ (11%)